

地方独立行政法人山口県産業技術センター評価委員会（第34回）の審議要旨

- 1 日 時 令和5年7月21日（金） 14:00～17:00
- 2 場 所 山口県産業技術センター 多目的ホール
- 3 出席者 山田委員長、岡藤委員、木村委員、山崎委員、吉村委員
(委員長以外50音順)

《内 容》

I 委員長選出

委員の互選により、山田委員を委員長に選出

II 審議事項

令和4年度における業務の実績に関する評価について

令和4年度における財務諸表等について

第3期中期目標期間終了時に見込まれる業務の実績に関する評価について

→ 資料1～9及び補足資料1～5により、事務局・法人から説明

《資料説明後、質疑応答・意見交換》 ●委員 ○センター

I 令和4年度における業務の実績に関する評価について

<業務体制の強化について>

- 実用化研究の推進に向けて、業務体制を強化したと記載されているが、具体的には、業務体制をどのような形にし、どういう機能が強化されたのか。
- 従来は細かく研究グループを分けていたが、緊密な連携による技術支援の向上を図るため、グループの再編を行った。

<受託研究・共同研究に係る評点について>

- 令和2年度、3年度と比べて実績が上がっているにもかかわらず、評点が変わらない項目があるが、評点を上げるためにはどのようなことが必要になってくるか。
- 何をもって評価を上げるのかという基準が曖昧な部分があるので、基準を作ることが必要とは思いますが、結局数値目標になってしまい、難しさを感じているところである。
- 令和2年度、3年度、4年度と実績が上がっているが、やり方を変えたり工夫したりしたことはあるか。それによって実績が上がったのであれば、4点としてもいいのではないか。
- 研究テーマの掘り起こしは重要で、コーディネータや研究員が各企業を訪問して掘り起こしを行っているが、それは従来どおりの取組で、新しい取組ではないため3点としている。

- 新しい取組にチャレンジをしていれば4点を付けられたかもしれないが、過去から行っている取組を継続して行っただけなので、自己評価もこれまでどおりの3点とした。

<情報共有の方法について>

- 職員への情報共有はどのように行っているか。
- グループ内での情報共有の仕方は各グループに任せている。大学とは人数が大きく違い、職員全体でも100人程度であるので全体会議を行うこともあれば、幹部職員のみで会議を行うこともある。

<提案公募型事業について>

- 提案公募型事業とは、どのような形で公募されるのか。
- 公募元が補助上限など要件を示して公募を行い、それに対して、企業の連携体やセンターの研究員が応募する。

<研究と働き方について>

- 研究に従事するに当たっては、働く時間に制約がかかってくると思うが、センターとして何か工夫していることはあるか。それとも、それぞれの部署に任せているのか。
- 基本的には研究員個人に任せているが、時間超過となるようであれば、グループリーダーなどがきちんとフォローするよう徹底している。
- 働き方改革も含めてのイノベーションであり、研究内容もだが、研究の進め方も企業の参考になるのではないかと思う。

<技術相談、開放機器・依頼試験について>

- 技術相談から、開放機器や依頼試験を利用するという流れはあるか。
- まず最初に技術相談があって、開放機器や依頼試験の利用につながるものもあれば、そこからさらに発展して、受託研究・共同研究の実施や提案公募型事業への応募につながるものもある。

<知名度向上に向けた普及活動について>

- まだセンターのことを知らなくて、ニーズはあるが利用できない企業があるように思うが、例えば商工会議所へ広告を配ることは検討されているか。
- 商工会議所含め、関係機関へのPRは行っているが、大学生や子どもに向けたPRも必要ではと感じているところである。どうすればセンターをより知っていただけるか、委員の皆様のご意見も是非賜りたい。
- 技術相談に来られた方の分析をするために、センターを知った理由や企業規模などを調査するアンケートは行っているか。

- アンケート自体は行っているが、既にセンターとつながりのある企業を対象としている。どの分野の企業で、何を利用したという分析は行っているが、ご指摘の点については抜けている状況である。
- 効果的な広告や有効な手法を取るためのヒントになると思うので、是非検討していただきたい。

<DX・IoT関連の相談について>

- DXやIoT関連の技術相談は増加傾向にあるか。
- IoTについては、「スマート★づくり研究会」で取組を行っているので、IoT関連の相談があれば、「スマート★づくり研究会」で対応する。また、技術相談室を設置しており、様々な相談に対応できるよう体制を整備している。
- DXやデジタル化に関連する相談は少ないが、IoTに関連する相談は多くある。

<成長産業の発展に向けたイノベーションの推進について>

- 成長産業のどういうところが強化できたか、成果として特にアピールできる点はあるか。
- 34テーマが提案公募型事業に採択とあるが、継続案件も含めると50テーマ弱のプロジェクトを推進している。特に、イノベーション推進センターで取り組んでいる環境・エネルギー関連、バイオ関連、医療関連のほか、宇宙利用関連、IoT関連にも重点的に取り組んでいる。

<衛星データの情報産業への展開について>

- 衛星データを情報産業に利用したテーマとして、提案型公募型事業に8テーマが採択されているが、具体的な内容は。
- 小麦の圃場での生育状況をリモートセンシングで把握することで、計画的な小麦の収穫につなげるというテーマや、ため池を行政が一括して把握するためのシステムの開発に関するテーマ、漁獲量増加のための予測システムの開発に関するテーマなど様々な観点で、産業化や行政課題の解決に向けて取り組んでいる。
- 防災や減災という観点もあるのか。
- そのような観点もある。行政のニーズを把握しながら取組を進めている。
- 行政と一緒にいうという話があったが、取組に参加する市町に偏りはあるのか。
- 基本的には、センターが課題のありそうな市町を訪問してニーズを調査し、課題の掘り起こしをしながら取組を進めている。

<大学院博士後期課程就学助成制度について>

- この取組については高く評価しており、現在2名が博士後期課程に進学していると聞いているが、他にも進学希望者はいるのか。
- 今のところ進学希望者はいないが、今後1名か2名程度は希望がある見込みである。
- 手が挙がらなければ、指名するという方法も考えられる。非常に重要な取組だと思うので、是非継続していただきたい。

<リモートによるマッチング支援について>

- 中小企業の手助けになると思うので、提案公募型事業や補助金の獲得に向けたリモートでのマッチング支援を是非検討していただきたい。

- 次回の評価委員会では、評価書素案に関する意見について審議したい。
《各委員了承》

Ⅱ 第3期中期目標期間終了時に見込まれる業務の実績に関する評価について

<評点の付け方について>

- 令和4年度や3年度が4点にもかかわらず、見込み評価の評点が3点になっている項目がいくつかあるがその理由は何か。
- 評点の付け方については、令和元年度から4年度までの評点の平均を四捨五入したものとすることになっている。また、数値目標については、令和4年度までの4年間の実績に応じて評点を付けるルールになっている。

<中期計画の推進に向けた取組体制について>

- 大項目1に掲げる3つの中項目に関する取組を推進するに当たり、各グループの職員は、3つの取組の全てに関わっているのか、それともグループ内で役割分担があるのか。
- 令和4年度に設置したプロジェクト推進部にはコーディネータが多くいるが、研究員については、3つの中項目のうちのどれを担当するかという割り当ては特段行っていない。
- PDCAサイクルを回しながら3つの中項目の取組を進めていく中で、組織として誰がコントロールしているのか、また、研究員の方々がどういう意識を持って、どこに向かって頑張ろうとしているのかが少し不明確だと感じたので質問させていただいた。

<特許について>

- 企業と共同開発して特許を取得した場合、誰の所有になるか。
- 共同出願した場合は、企業とセンターが共同で所有することになる。現在センターは、特許に関する戦略を持っていないので、今後作成する予定としている。

<付加価値の高い成長産業の育成・創出について>

- 「付加価値の高い成長産業」とは何か、今後どの分野の育成に力を入れていくのかという方向性が不明確なので、資料等を用いてお示しいただきたい。

- 次回の評価委員会では、評価書素案に関する意見について審議したい。
《各委員了承》